



地域防災力の向上について

大屋 彰(公明党)

- 行田市では地域の防災リーダー育成や地域防災力の向上を目的として、令和4年度より、行田市防災士養成講座を開催し、幅広い多様な層で防災士を養成し、地域防災力の強化を図っている。
- 問** 本市の防災士養成講座での防災士の取得状況は。
- 答** 令和4年度82名、令和5年度79名、令和6年度70名、令和7年度が現時点で35名、4年間の合計は266名。
- 問** 取得後の防災知識、技能向上のための研修等の実施状況は。
- 答** 市の防災訓練、防災フェア及び防災士研修会等で、机上研修に加え、実践的な応急手当訓練や炊き出し訓練を実施している。
- 問** 今後の防災士育成は。
- 答** 昨年度から、防災士養成講座の受講対象者を中学生以上とし、要配慮者が利用する幼稚園、保育園、高齢者施設の職員を加えた。本年度は熊谷市と共同で、防災士養成講座を実施。来年度も引き続き、熊谷市と共同で実施予定。

夏休みの見直しも、そろそろ必要なのでは？

野本 翔平(令和研究会)



- 問** せっかくの夏休みだが気温が高すぎて何もできない。海や避暑地に行くのが困難な家庭も少なくない。異常な気温上昇や、学校へのクーラー完備など状況も変わった中で夏休みはこのままでいいのだろうか。そもそも夏休みの目的とは何か？
- 答** 特に定めはなく、行田市としては、児童生徒の心身の休養と、学校ではできない多様な体験、としている。
- 問** 今、行田の夏は暑すぎて心身の休養も、外での多様な体験もできない。それなら春と秋が最適なのでは。大胆な見直し案として、夏休みは二週間にし、春休みに二週間追加し、また新たに二週間の秋休みを設けてはどうか。
- 答** 他市の状況も踏まえつつ調査研究する。

より良い多文化共生のために／日本遺産構成文化財「行田音頭」



駒見 行彦(令和研究会)

- 問** 多文化共生のための、地域住民の皆様に対する支援について。
- 答** 自治会長に向け「やさしい日本語」の研修準備を進めている。
- 問** カタログポケットという多言語対応アプリを、近隣市では外国人への住民サービスとして導入している。本市はどうか。
- 答** 外国人にも対等にサービスを提供するために必要と認識しており、導入について検討していきたい。
- 問** 浮き城まつりや地域のお祭りで行田音頭を活用してみたい。
- 答** 継承活用する上で有効な手段であると考えている。今後お祭り実行委員会、主催者に働きかけていく。
- 問** 夕方5時の防災行政無線の放送を行田音頭に変えてみては。
- 答** この放送は子どもたちへの帰宅時間の注意や、防災行政無線放送の点検の一環であるため、聞きやすさなどを踏まえ調査研究していく。